

平成20年度事務局職員研修 (Staff Development) 報告書

8月27日(水)の午後から大和キャンパス多目的室において「法人化に向けて、事務局組織の能力向上を図る」をテーマとした平成20年度事務局職員研修(SD)が開催され、大和・太白両キャンパスの職員が、外部講師による2つの講義を受講し、組織能力の向上に向けて研鑽に励んだ。

はじめに馬渡学長から挨拶とともに、本日の2つの講義のテーマに関連し、公立大学法人に適用される特異性をもった会計原則への理解度の向上、あるいは法人の職員として第一の顧客は学生であるということを念頭に置いた接遇の再認識などについて、研修の効果を期待する旨の話があった。

研修の前半は、講師に監査法人トーマスから関口恭三ディレクターと黒川肇シニアマネージャーの両公認会計士を招き、「地方独立行政法人会計基準の基礎」をテーマに講義が行われた。講義では、公立大学法人の財務会計制度や地方独立行政法人会計基準について、先行する他の公立大学法人の財務諸表等の事例も用い、具体的な説明があった。

後半の講義は、「アカデミズムとホスピタリティの再融合を目指して～顧客満足度向上のための接遇力～」をテーマに、(株)S&M企画プランニングの村上伸子代表取締役・主任研究員を講師に行われた。大学におけるホスピタリティの起源から現代社会で求められている「CS＝顧客満足」の概念について、あるいは今後求められる顧客の「満足の構造」を理解した接遇実践の重要性について、職員の意見発表も交えながら講義が行われた。

最後に、保理事務局長から、今回の研修を契機に意識改革と自己啓発に努めること、常に問題意識を持って業務を遂行してほしいとの閉会のあいさつがあった。